

令和8年度 市川市献血推進協議会 会議録

令和8年7月23日（木）午後2時～2時45分
市川市役所第1庁舎 2階 大会議室

【出席者】

会長	市川市薬剤師会	青野 匡宏
副会長	市川市医師会	奥井 秀由起
	千葉県市川健康福祉センター	安部 美香
	市川市消防局	羽田野 清
	市川市	横山 京子
	千葉商科大学付属高等学校	高井 宏章
	市川市教育委員会	小林 義行
	市川商工会議所	山中 右次
	京葉瓦斯株式会社	水野 寛之
	市川港開発協議会	山口 貴豊
	市川市赤十字奉仕団	立石 敬子
	市川行徳ロータリークラブ	藤原 孝夫
	市川市自治会連合協議会	日光 三代治

千葉県赤十字血液センター千葉港事務所事業課課長 永井 孝典
推進二係長 新井 友也

事務局	市川市保健部	次 長	小森 裕治
	〃 保健医療課	課 長	石井 雅紘
	〃 〃	主 幹	熊川 孝弘
	〃 〃	副主幹	前田 代志子
	〃 〃	主任主事	植草 梨奈

《会議次第》

1. 開 会
2. 議 題
 - (1) 令和7年度 献血推進事業報告書について
 - (2) 令和7年度 決算報告について
 - (3) 令和8年度 献血推進事業計画及び進捗状況について
 - (4) 令和8年度 予算（案）について
3. その他
 - (1) 赤十字血液センター事業について
4. 閉 会

《開 会》

[会議の成立]

[会議の公開]

[傍聴人なし]

[委員自己紹介]

[千葉県赤十字血液センター挨拶]

[事務局挨拶]

議題（１）令和７年度献血推進事業報告について

【事務局】

（市川市資料１頁）「令和７年度献血推進事業報告」を参照

献血推進事業報告について事務局から報告いたします。

令和７年度に実施した献血の実績報告です。

上段の（１）主体別の目標及び実績についてです。

内訳にあります「市主体」とは、市の施設を会場として、主に市の職員を対象に実施した献血、「血液センター主体」とは、駅前や民間事業所、学校などで行う市施設以外で実施する献血のことです。

昨年度の市主体の献血につきましては、市役所第１庁舎、第２庁舎、行徳支所、クリーンセンター及び消防局において、延べ１３回実施し、目標に対する達成率は７２．１％となっています。

また、血液センター主体の献血につきましては、延べ８３回実施し、達成率は４６．１％となっています。

合計では、市川市において延べ９６回献血を実施し、全体の達成率は４８．８％となっています。

（２）献血実績（区分別）につきましては、献血を実施した会場区分ごとの採血者数の実績です。

市主体については、合計は４１９人、献血会場１回当たりの採血者数は３２．２人となっています。

また、血液センター主体については、２，３１７人、献血会場１回当たりの採血者数は２７．９人となっており、全体では合計で２，７３６人、１回当たり２８．５人となっています。

なお、受付後の問診等により、ヘモグロビン濃度不足などで採血ができなかった不

適者数は全体で 441 人おり、不適率は 13.9%でした。

(市川市資料 2 頁)

こちらは、採血者数と換算本数の直近 5 年間の推移です。

令和 7 年度の採血者数につきましては、前年度に比べて 264 人減、換算本数につきましては 503 本減となっています。

(市川市資料 3 頁)

こちらは、令和 7 年度における千葉県内各市町村の目標採血者数に対する達成率を高い順に並べたものです。

市川市につきましては、表内に太枠で表記していますが、採血者数は 2,736 人と県内 9 位の実績となるものの、目標に対する達成率は約 49%で、県内 54 市町村中 51 位となっています。

(市川市資料 4、5 頁)

採血者の職業別と年齢別の表です。

職業別につきましては、会社員等が 58.9%となっています。

年代別につきましては、50 代の採血者が最も多く、最も少ないのは 10 代となっています。なお、これら年代別の構成比につきましては、千葉県全体の比率とほぼ同様となっています。

(市川市資料 6 頁)

こちらは、市の献血普及に関する取り組みについてです。

献血実施に関する市広報や市公式ウェブサイトへの掲載のほか、LINE や X などの SNS を活用した広報活動を行っています。

また、市役所庁舎で行う献血については、献血実施の際の庁舎内へのポスター掲示や庁内アナウンスによる周知、職員向けメールの配信などの広報活動を行っています。

議題(2) 令和 7 年度決算報告について

【事務局】

(市川市資料 7 頁) 「令和 7 年度決算報告」を参照

歳入につきましては、市からの負担金が 99,000 円、前年度の繰越金が 12,501 円、歳入合計は 111,501 円となりました。

歳出につきましては、報償費、報償品は、啓発品の購入費として 93,258 円、需用費、消耗品費は 0 円、役務費、通信運搬費は通知等の発送代金として 5,540 円、手数料は代金振込手数料として 770 円、以上で歳出合計は 99,568 円となります。

歳入に対する歳出の差額計 11,933 円につきましては、次年度繰越金といたします。

【青野会長】

ご質問などはございますか。

「令和 7 年度決算報告について」承認してよろしいでしょうか。

【委員】

異議なし

【青野会長】

「令和7年度決算報告」については承認することといたします。

議題（3）令和8年度献血推進事業計画及び進捗状況について

【事務局】

（市川市資料8頁）「令和8年度献血推進事業計画及び進捗状況」を参照

上段（1）の表は、令和8年度の主体別の目標及び進捗状況となります。今年度すでに献血を実施しているため、実績につきましては、4月から6月までの実施状況を反映しております。まず市主体につきましては、6月末時点で延べ3回献血を実施し、15.6%の達成率となっております。

血液センター主体につきましては、6月末時点で延べ20回献血を実施し、11.2%の達成率となっており、全体では11.6%の達成率となっております。

なお、市主体によるこれまでの実施状況及び今後の実施予定につきましては、下段（2）の表のとおりとなります。

【青野会長】

ご質問、ご意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。

【委員】

質問、意見なし

議題（4）令和8年度予算（案）について

【事務局】

（市川市資料9頁）「令和8年度予算（案）」を参照

歳入につきましては、市からの負担金が99,000円、前年度の繰越金が11,000円、歳入合計は110,000円を計上しています。

歳出につきましては、報償費、報償品は啓発品の購入費として99,000円、需用費、消耗品費は事務用品等の購入費として1,000円、役務費、通信運搬費は通知等の発送代金として8,000円、手数料は啓発品の代金振込手数料として2,000円、以上、歳出合計も110,000円を計上しています。

【青野会長】

今年度の啓発品はどのようなものを購入する予定でしょうか。

【事務局】

啓発品につきましては、傘やペットボトルを入れるためのポーチを購入する予定としています。個数は300個程度購入し、献血の際に献血ご協力者にお配りする予定です。

【奥井副会長】

すでに8月になるところですが、このあと啓発品を購入するのか、来年度に繰越しになるのでしょうか。

【事務局】

このあと今年度中に購入し、納品され次第、今後の献血事業でお配りしたいと考えております。

【奥井副会長】

前年度の啓発品はまだ残っているのか、それとも配り終わっている状態なのでしょうか。

【事務局】

昨年度の献血推進協議会の啓発品についてはすべてお配りしており、現在は赤十字血液センターでご用意いただいたものをお配りしています。

【奥井副会長】

1 ページの主体別、市主体の実績の前年比が低い理由や考察はありますでしょうか。

【事務局】

理由はわかりませんが、今後も庁内向けに周知し献血者数の増を目指していきたいと考えています。

【青野会長】

他に、ご質問、ご意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。
「令和8年度予算（案）」について承認してよろしいでしょうか。

【委員】

異議なし

【青野会長】

「令和8年度予算（案）」について承認することといたします。

その他 赤十字血液センター事業について

【赤十字血液センター 新井係長】

（千葉県赤十字血液センター資料）千葉県の供給・献血状況を参照

・令和7年度の概要

千葉県内の医療機関で使用される輸血用血液の需要は、令和2年度以降増加傾向が続いており、昨年度については対前年比 100.3%の血液を県内医療機関にお届けしました。

千葉県内に6カ所の献血ルーム、その他10台の献血バスにて教育機関や事業所に伺って学生や従業員の方にご案内し、血液の確保に皆さまのご協力を賜っております。

昨年度は239,409名にご協力いただいておりますが、血液の安定的な供給に繋がってはいませんが、年代別で20代から40代の方の協力が減少傾向にあります。

市川市内だけでなく全国で見ても人口分布として40代から60代が増えていくので、若い方の献血者数を増やすことは難しいですが、献血には年齢の制限があるこ

とから若年層の方により一層ご協力いただき、引き続き多くの皆さまのご協力が必要です。

・輸血用血液製剤供給状況（過去3年間の状況）

医療機関での需要は、赤血球製剤は前年比99%でほぼ横ばいですが、血漿製剤や血小板製剤については増加していることから、引き続き献血のご協力は継続的に必要とお考え下さい。

・献血状況と供給状況

献血者数については、対前年度比合計で704名増のご協力をいただいた状況です。特に医療機関で需要が高い400ml献血、および血漿成分献血については多くのご協力を賜っております。

供給状況については、400ml献血は対前年度比99.6%で横ばいですが、血漿製剤、血小板製剤を含めると2,591単位の増となっています。

また、献血の際、事前予約をしていただくことで、予め血液型の把握ができ、製剤化の段取り、医療機関へ届けるタイミングが図れ、輸血用血液の安定確保や安定供給に繋がっています。

・年代別献血状況

若年層の献血者数は減少傾向にあります。少子高齢化に伴うものもありますが、10年間で21.4%減少しております。各事業所様におかれましては、今後の献血を支えていただく若年層の方々にご協力いただけるよう背中を押していただけると助かります。

・令和8年度供給計画・献血目標

令和8年度の供給計画及び献血目標を載せております。

・献血の輪が広がりますように

輸血用の血液製剤の多くは、癌や白血病の患者の方がお使いになります。

一度献血を行うと献血者の体調を考慮し、次の献血までに一定期間を空けたり、年間の献血量に制限がかけられたりします。また、保存期間も赤血球製剤については採血後28日間、血小板製剤は6日間と非常に短い期間となっていることから、より多くの方にご協力いただく必要があります。

輸血用血液製剤を必要とする方が、安心して輸血医療を受けられるよう、より多くの皆さまのご協力をお願いします。

【青野会長】

ご質問、ご意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。

【奥井副会長】

市川市の人口を考えると市川市に献血ルームがあってもいいと思いますが、つくるためには人口の目安や基準があるのでしょうか。

【赤十字血液センター 新井係長】

献血ルームの配置は赤十字血液センターだけでは決められず、千葉県など行政が関わってきます。市川市にお住まいの方については、近隣に献血ルームが多いという現状から市川市には設置していないという状況です。

【奥井副会長】

市川市は献血ルームがないわりには市町村別献血状況をみると、人数的には松戸、船橋、柏と遜色ないと思いますが、献血バスや事業所さんが頑張っているということなのでしょうか。

【赤十字血液センター 新井係長】

市川市内には献血ルームはありませんが、駅前やショッピングモール、また市川市は大規模事業所が多いことから、多くのご協力をいただいている状況です。

【青野会長】

他にご質問等がありますでしょうか。

議題は以上となりますが、全体を通して委員の皆さまよりご意見などがあればここで伺いたいと思いますがいかがでしょうか。

【委員】

質問、意見なし

【青野会長】

以上をもちまして、令和8年度市川市献血推進協議会を終了いたします。

《閉 会》